

専門学校 東都リハビリテーション学院 学校関係者評価 2024(R6)年度

I. 理念・目的・育成人材像

I-1 教育理念・目標・方針の明文化および公表状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念・目標・方針が明文化され、広報媒体を通じて適切に公表されている点は高く評価できる。 ・ 受験生・在校生・保護者・関係機関に対して、教育の基本方針を明確に伝えていていると感じる。今後も情報発信を継続して頂きたい。 ・ 関係者への周知に努めている姿勢がうかがえ、教育の基本方針の透明性が確保されている。 ・ 社会の変化を踏まえた見直しの必要性を認識しており、改善への意欲が感じられる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念・目標・方針の定期的な見直しには、教職員だけでなく、学生や卒業生の意見を取り入れる仕組みを検討するとよい。 ・ パンフレットやホームページの表現については、図解や動画など視覚的な要素の活用も有効である。 ・ 公表後の周知状況や理解度について、アンケートなどで効果検証を行うと、さらなる改善に繋がる。
I-2 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの明文化および公表状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三つのポリシーが明文化され、適切に公表されている点は基本的要件を満たしており評価できる。 ・ 教育の質の継続的な改善に取り組んでいると感じる。 ・ ポリシーに基づいた教育活動の展開と、PDCA サイクルを活用した改善の取り組みは好事例である。 ・ 教育の質保証に向けた組織的努力が継続されていることに好感が持てる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ポリシー間の整合性や教育課程との関係について、具体的なマッピング資料の作成を検討すると効果的。 ・ 学生・保護者への周知には、学内ガイダンスや説明動画など多様な手段の併用が望ましい。 ・ ポリシーがどのように教育に反映されているかを、具体的な授業・評価方法の事例を交えて伝えると理解が深まりやすい。
I-3 アセスメント・ポリシーの明文化および公表状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメント・ポリシー策定に向けた検討が段階的に進められており、組織的な取組が認められる。 ・ 試行的な運用とフィードバック体制の構築を目指していると感じる。 ・ 学修成果の明確化や評価体制の整備に対する意識が高く、質保証への前向きな姿勢が評価できる。 ・ 試行的な運用を視野に入れている点から、実効性のある制度設計を重視していることがうかがえる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 策定中のアセスメント・ポリシーには、評価の目的・方法・活用方針を明確に記述することが重要。 ・ 教員間での共通理解を図るため、定期的な研修やワークショップの実施を推奨する。 ・ 評価結果の分析を教育改善に結び付ける仕組みを具体化し、実際の事例とともに共有すると効果的。
I-4 学校の理念・目的・育成人材像等の周知状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校説明会や高等学校訪問など、対面機会を活用した周知活動が積極的に行われている。 ・ 受験生や保護者に対して積極的な情報発信を行っていると感じる。 ・ 教育理念や三つのポリシーがパンフレット・ホームページに掲載されており、情報公開の姿勢がうかがえる。 ・ 関係者に対して一貫したメッセージ発信を行っている点は好評価である。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットや Web 上の情報は、見やすさや構成を再検討し、視認性を高める工夫が必要。 ・ 説明の際には、ポリシーが具体的にどう学びに反映されるかを分かりやすく示すと理解が深まる。

- ・ 学校理念や育成人材像の認知度向上のため、継続的かつ多面的な広報戦略の強化が望まれる。

II. 学校運営

II-1 組織体制の明確化および運営状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学院長を中心とした明確な組織体制が構築されており、部門ごとの業務遂行が機能している点は評価できる。 ・ 織図の作成、役割分担の明確化を年度内に完成させて頂きたい。 ・ 複数校舎間での情報共有体制が一定程度整備されていることは、組織全体の連携強化に寄与している。 ・ 教員の業務負担に関する課題を把握しており、改善に向けた意識が示されている。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織図や業務フローの整備は、役割と責任の可視化に有効であり、早期の導入が望まれる。 ・ 意思決定の迅速化と運営効率のさらなる向上を図って頂きたい。 ・ 業務負担の偏りを是正するため、定期的な業務内容の棚卸しと業務分担の見直しが必要。 ・ 校舎間の連携強化に向けて、ICTを活用した共有ツールや会議体の整備をさらに推進するとよい。
II-2 業界および地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員・学生双方に対するコンプライアンス教育が行われており、基本的体制が整備されている点は評価できる。 ・ 講義や実習指導の中でコンプライアンスの基本的な考え方や行動規範について教育を行っていると感じる。 ・ 校内研修や日常的な注意喚起によって、教職員の意識向上が図られている。 ・ 学生にも行動規範を教育している点は、将来を見据えた実践的な取組として有意義である。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の事例を取り入れた研修は理解促進に有効であり、継続的な実施が望まれる。 ・ 組織的なりスク管理体制や未然防止策を明文化し、全体に共有する仕組みが必要である。 ・ 地域社会との連携や協働を視野に入れたコンプライアンス教育の展開も検討するとよい。
II-3 理学療法士専任教員および関連領域専門家の配置状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定規則に基づいた専任教員の適正配置がなされており、制度上の要件を十分に満たしている。 ・ 基礎医学・臨床医学分野における専門家の配置により、教育内容の専門性と多様性が確保されている。 ・ 教育体制が機能しており、理学療法士養成の基盤として評価できる。 ・ 理学療法士養成に必要な幅広い知識を教える体制には改善の余地があり、他校と比べて学生の学力や知識に課題が見られる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員配置の質的向上を意識し、教育・研究両面での専門性を継続的に確認・強化することが望まれる。 ・ 臨床現場との連携をさらに深化させ、教育内容へのフィードバック体制を整備すると実践力の向上につながる。 ・ 今後の学生数の推移や教育課程の改訂に柔軟に対応できる体制づくりが求められる。 ・ 特に解剖学や運動学では、試験基準の厳格化や、合格点に達しない学生への補習・留年などの対応を検討する必要がある。
II-4 教員の教育歴と資質向上の取組
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が一定以上の学位や研修歴を有し、教育者としての資格要件を満たしている点は評価できる。 ・ 専任教員養成講習会への参加支援を通じて、資質向上への取り組みが制度的に整備されている。 ・ 教員の自己研鑽を促す姿勢が全体として浸透しており、教育の質確保に寄与している。 ・ 今年度の実習生に基礎知識の不足が見られたことから、講師の質や指導成果の把握と適切な人材配置の重要性が高まっている。 <p>【助言】</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・教員構成の多様性を高めるため、異なる分野や実務経験を持つ人材の積極的な採用を検討するとよい。 ・若手教員の成長支援に向け、メンター制度や定期的なフォローアップ体制の導入を推進したい。 ・教育力向上に関する研修やFD活動の成果を可視化し、全体での共有を図る工夫が望まれる。 ・非常勤講師の選任においては、臨床経験に基づく信頼性だけでなく、学問的な指導力も重視する必要がある。 ・OBや関係が深い施設からの講師については、教育内容や指導力を十分に確認した上で選出することが望ましい。
II-5 教員の要件と支援体制
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が学士以上または同等の学識・研修歴を有し、資格要件を適切に満たしている点は評価できる。 ・継続して専門性の深化と教育能力の向上を促進して頂きたい。 ・専任教員養成講習会への参加を支援する体制が整っており、教員の資質向上に向けた仕組みが機能している。 ・教員の専門性と教育力の両面での成長を促す環境づくりが進められている。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の育成やキャリア形成支援を体系的に行うため、個別のフォローアップ体制の充実が望まれる。 ・外部研修の活用をさらに促進し、教員の視野拡大や最新の教育手法の導入につなげていくとよい。 ・教員の能力開発に関する成果や活動状況を共有・評価できる仕組みの整備が今後の課題となる。
II-6 教員数と教科目の管理運営について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員数および教科目管理は法令に準拠し、適正に実施されている点は評価できる。 ・教育内容との整合性は保たれていると感じる。 ・専任教員数が基準を満たし、教育課程に応じた人員配置が確保されている。 ・担当科目と教員の専門分野の整合性は概ね保たれており、教育の質維持に寄与している。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性と担当科目の一致度をさらに高めるための継続的な見直しが望まれる。 ・教員の担当分野における研究活動を積極的に促進し、教育内容の質向上につなげてほしい。 ・教員間の連携を強化し、教育内容の一貫性と深みを増す取り組みを推進するとよい。
II-7 教育の質の向上について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究・研修活動を通じて教育の質向上に積極的に取り組んでいる点は評価できる。 ・教育活動の質の向上には十分につながっておらず、学生の知識、体力、資質、生活態度などに課題が見られる。他校と比べて総合的に低い印象があり、学生指導の見直しが必要である。 ・教員の研究業績の公表や大学院進学の奨励など、透明性と資質向上を意識した施策が実施されている。 ・公的研究費の獲得を含め、教員の研究活動が徐々に活発化し、教育の質向上に寄与している。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を教育内容に効果的に還元するための仕組みづくりを一層推進してほしい。 ・若手教員の育成支援体制を体系的に整備し、長期的な教育力強化を図ることが望まれる。 ・公的研究費獲得に向けた支援体制を強化し、教員の研究活動を一層活性化させる取組みを進めてほしい。
II-8 教職員の健康診断について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を対象とした年1回の定期健康診断を法令に則り適切に実施している点は評価できる。 ・健康診断結果に基づき、再検査や精密検査を促すフォロー体制が整備されている。 ・教職員の健康管理に対する基本的な体制が整い、安全な労働環境の確保に貢献している。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス対策やストレスチェックを含めた健康支援の充実を図ることが望ましい。 ・健康診断結果を活用した個別の健康指導や生活習慣改善支援を強化してほしい。 ・教職員の健康意識向上に向けた継続的な啓発活動や環境整備を推進するとよい。

II-9 情報システム化等による業務の効率化について

【総評】

- ・専用ソフトウェアの導入により業務の効率化と情報共有が実現されている点は評価できる。
- ・業務の効率性と正確性の向上が図られていることを継続して頂きたい。
- ・業務データの一元管理によって正確性も向上している。

【助言】

- ・教職員への情報システム活用のさらなる促進と定着支援を推進するとよい。

III. 教育活動

III-1 組織体制の明確化および運営状況

【総評】

- ・厚生労働省指導要領および関連規則に準拠したカリキュラム編成と運用が適切に行われている。
- ・継続的に実施過程における成果と課題についての検証を進めてほしい。
- ・新カリキュラムの迅速な導入・実施と、1 サイクル運用後の検証が着実に進められている点は評価できる。

【助言】

- ・学修成果や国家試験結果、臨床評価など多面的データを活用した継続的改善をさらに強化するとよい。
- ・カリキュラムの定期的な点検・評価の仕組みを明確化し、組織的に運用する体制づくりを推進してほしい。

III-2 シラバスの整備と実効性の向上

【総評】

- ・シラバスの整備が全授業科目で徹底されており、学生の履修選択に資する明確な情報提供が行われている。
- ・質の高い授業の提供は重要であるが、理学療法士を目指す学生としての基本的な資質や覚悟、感謝の心、医療従事者としての心構えといった生活面・精神面の指導もあわせて行うことが求められると感じる。
- ・学修内容や評価基準の透明性が高く、主体的な学びを促進している点が評価できる。

【助言】

- ・到達目標の具体化と達成可能性の検証をさらに推進し、シラバスの実効性を高めてほしい。
- ・アクティブラーニングの導入状況や学生の学修成果との整合性を継続的に見直し、教員間の情報共有を強化する仕組みづくりを進めることが望ましい。

III-3 診療参加型臨床実習の実施

【総評】

- ・指導ガイドラインに則った診療参加型臨床実習が適切に実施されており、指導者資格やハラスメント防止体制の整備が評価できる。
- ・診療に参加させるには基礎知識が不足している学生がいる。

【助言】

- ・指導者研修の充実と実習内容の標準化を進め、教育の質の均一化と向上を図ることが望ましい。
- ・実習前テストなど、最低限の知識を習得させる必要がある。フィードバックを活用した継続的な改善体制の強化により、実習の効果的な運営を目指してほしい。

III-4 特色ある教育プログラムの有無

【総評】

- ・スポーツ分野との連携による実践的な教育プログラムが展開されており、専門性と人間性を両立した教育方針が高く評価できる。
- ・専門的な知識・技術の習得に加え、人間性の育成にも配慮した教育の推進が望まれる。

【助言】

- ・地域連携や多職種連携に基づく教育内容の充実により、今後の教育プログラムの幅をさらに広げていくことが望ましい。
- ・現行の特色ある取り組みを継続・発展させ、学生の進路の多様化に柔軟に対応できる体制づくりが求められる。

<ul style="list-style-type: none"> ・未来に希望を持っていない生徒も多いため、夢や希望、理学療法士の可能性を高められる機会はどんどん取り入れてほしい。
III-5 シラバスにおける到達度への配慮と工夫
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスにおける到達目標の明示と授業内での共有が体系的に実施されており、学生の学修意欲の向上に寄与している。 ・シラバスでは各科目の到達目標が具体的に示されておらず、理解や徹底が不十分です。特に解剖学、運動学、整形外科学など基盤となる科目で学生が必要最低限の知識を習得できず、その結果、参加型臨床実習の時間が確保できずに教育の質が落ちている。 ・教育課程全体を見据えた学習内容や到達レベルの設定・説明が行われており、学修成果の計画的達成に向けた取り組みが確認できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の学習到達度を定量的に測定・評価できる指標や評価方法の確立が今後の課題である。 ・基礎教科の教員とその到達レベルの見直しが必要とを感じる。 ・授業内容とシラバス記載内容との整合性を検証する定期的な体制づくりが、教育の質保証に有効と考えられる。
III-6 キャリア教育および職業教育に関する取組状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間を通じた段階的・体系的なキャリア教育の体制が構築されており、職業的自立に向けた教育支援が計画的に実施されている。 ・引き続き、現場で求められるスキルの習得に資する教育活動を展開してほしい。 ・職業観・倫理観の育成や実践的スキル習得に重点を置いた指導内容は、専門職養成校としての教育目標に沿ったものと評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育成果の検証結果を踏まえたフィードバックの仕組みを確立し、より実効性の高いキャリア教育へとつなげていくことが望まれる。 ・現場ニーズの変化を反映させたカリキュラムの見直しや、卒業生・実習施設からの意見を取り入れた改善も有効である。
III-7 関連分野の施設・団体との連携状況について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉・リハビリ関連機関との連携により、学生に対する実践的教育が適切に展開されている点は高く評価できる。 ・一部の学生の不適切な言動により、今後実習先が減る可能性がある。当院は提携施設のため受け入れを続けるが、他の施設では拒否される恐れもあり、学生の態度やマナーに対する指導強化が必要である。 ・外部講師の活用や臨床実習の実施を通じて、現場理解と職業意識の醸成が図られている。 ・実習施設の確保において不安定さが見られるが、一定の連携体制は維持されており、継続的改善への取り組みが期待される。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の安定的確保に向けた継続的な連携強化と、代替手段としての新規提携先の開拓が必要である。 ・地域との連携や多様な施設の活用を進めることで、学生に幅広い臨床経験を提供できる体制構築が望まれる。 ・実習後のフィードバックや卒業生・実習指導者からの意見を反映させる仕組みづくりを通じて、教育内容の質的向上を図ることが求められる。
III-8 実践的な職業教育の位置づけについて
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士養成において、専門知識に加え関連分野の教育を取り入れた実践的なカリキュラム構成は評価できる。 ・引き続き、理学療法に加えて、医療・福祉・リハビリテーション等の関連分野に関する授業も取り入れて頂きたい。 ・講義と実技を組み合わせた教育方法により、知識の定着と実践力の養成が効果的に図られている。 <p>【助言】</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場や卒業生からの継続的なフィードバックを教育内容に反映させる体制を強化することが望まれる。 ・実践的職業教育の意義や方向性について、教員間での共通理解を深める機会の設定が求められる。
III-9 授業評価の実施・評価体制について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の重要性が認識されている点は評価できるが、現状では体制整備が不十分であり、教育の質保証の観点から早急な対応が求められる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の実施主体を明確にし、標準化された評価項目とフィードバックの仕組みを整備することで、授業改善への実効的な活用が期待される。
III-10 外部関係者からの評価について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部関係者の評価を毎年実施している点は、客観性と透明性の確保において好ましい取り組みである。 ・臨床実習における多面的評価も、実務能力の育成に資する点で評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部評価の結果を教職員全体で共有し、改善サイクルとして機能させるための体制強化が望まれる。 ・評価に基づいた改善策の立案・実行状況を検証する仕組みを明確にすることで、教育の継続的質向上が期待できる。
III-11 成績評価と単位・進級の運用
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の基準が明文化され、学生に事前提示されている点は透明性の確保に有効である。 ・進級判定の基準や運用には不透明な点が見受けられ、見直しが求められる状況にある。 ・筆記・実技・課題など複数の評価手法を用いた多面的評価が実施されており、客観性が担保されている。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の多様化に対応するため、ルーブリックやポートフォリオ評価の導入により、学びのプロセスを重視した評価体系の確立が期待される。 ・教員間での評価基準の共有・研修体制を整えることで、評価の公平性と一貫性のさらなる強化が望まれる。
III-12 資格取得等に関する指導体制について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ制導入により、学生個々の学習状況に応じた指導が可能となり、きめ細かな国家試験対策が実現されている。 ・指導体制の強化に継続的に取り組む姿勢がうかがえ、教育の質向上への意識が高い。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ制の効果を定量的に把握するため、合格率や学生の満足度等のデータに基づく継続的な評価・改善が望まれる。 ・学生の自己学修力を高める仕組み（学習計画の策定支援や学修記録の活用等）との連動も今後の展開として検討されたい。
III-13 教員の確保および教育・研究体制の整備状況
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上と安定的な確保に向け、研究支援や学会参加の促進、専門性の高い非常勤講師の配置が効果的に行われている。 ・授業負担の公平性に配慮した科目配分や教員評価の活用が、教育体制の質向上に寄与している。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の教育力・研究力向上のため、研修プログラムやキャリア開発支援を体系的に整備することを検討されたい。 ・授業評価と教員配置の連携強化に向け、評価結果のフィードバック体制や改善プロセスの透明化を推進することが望ましい。
III-14 関連分野と連携できる優れた教員（本務・兼務含む）の確保について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性向上を支える柔軟な勤務体制や研修機会の確保がしっかり整備されている。 ・研究と臨床活動の両立に配慮した環境が、教員の自己研鑽を促進している。

<p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を教育に還元する具体的な指針の早期策定と、その運用体制の整備を進めることが望ましい。 ・外部機関との連携強化に向け、教員間の情報共有や協働促進の仕組みを一層充実させることを検討されたい。
III-15 教員の研修等について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性向上や指導力強化に向け、研修参加や学会発表支援が積極的に行われている。 ・大学院進学支援により、継続的な能力開発の基盤が整備されている。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修や学会活動の成果を校内で効果的に共有・還元する仕組みの早期整備を推進すべきである。 ・研修成果の可視化と評価制度を導入し、具体的な効果測定とフィードバック体制の構築に取り組むことを勧める。

IV. 学修成果

IV-1 就職率の向上について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い就職率を安定的に維持しており、教育・支援体制の成果が明確に現れている点は評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職満足度や定着率を把握するための継続的なフォローアップ体制を構築し、支援の質的向上を図ることが望まれる。
IV-2 資格取得率の向上について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策としてゼミ制を導入し、教員の総力を挙げた支援体制が機能している点は高く評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ制の成果を客観的に検証しつつ、模試データを活用した個別指導の精度向上により、さらなる合格率向上を図ることが望まれる。
IV-3 学業達成率の向上について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価や個別指導による支援体制が整備されており、学生の学業達成を促す取り組みが継続的に行われている点は評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学業達成率と実際の理解度の乖離を解消するため、成績下位層への計画的な補講と、学習意欲を喚起する動機付け施策の導入が求められる。 ・学業達成率の向上に向けては、成績不振の学生への対応方法を見直し、より効果的な支援体制の構築が求められると感じる。 ・フィードバックに基づいた授業内容・方法の見直しを継続的に実施し、理解度の向上に直結する指導の工夫をさらに進めてほしい。
IV-4 教育成果の点検・評価結果が学生にフィードバックされているか
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育成果に基づく個別指導や補講など、学生へのフィードバック体制が整備されており、学修支援として一定の成果が認められる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックの質と効果を検証し、学生の受け止め方を踏まえた改善策を講じることが望まれる。 ・国家試験対策に限らず、日常的な授業でもフィードバックを体系化し、継続的な学習支援として機能させる体制の構築が期待される。
IV-5 退学率の低減の取り組みについて

<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談や保護者との連携を通じた組織的な支援体制が構築されており、退学率低減に一定の成果が見られる点は評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休学者の実態把握と要因分析を進め、多様な背景に応じた柔軟な支援策の構築が望まれる。 ・女性職員の配置を含め、学生の多様なニーズに応じた支援体制の充実が求められる。
IV-6 卒業生との交流および卒業生からの提言・情報の収集について
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生との継続的な交流の姿勢は評価でき、教育活動への関与も実践されている点は好ましい。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した卒業生ネットワークの構築は有効な手段であり、情報収集と相互支援体制の確立が期待される。 ・OB会の機能向上に向け、定期的な交流イベントやフィードバック機会の創出を検討するとよい。
IV-7 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生との継続的な情報交換を通じた教育課程の改善は実践されており、一定の成果が認められる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ネットワークに依存しない、組織的かつ定量的なキャリア追跡調査の仕組みを早急に構築することが望まれる。 ・キャリア形成に関するデータを蓄積・分析し、教育内容へのフィードバックを行うサイクルの明確化が必要である。

V. 学生支援

V-1 学生からの相談に対する体制
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員による連携体制が機能しており、学生の学修・心理的支援において一定の成果が見られる。保護者を含めた対応も実効性の高い取り組みと評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な精神的支援の体制強化が必要であり、常駐のカウンセラーの配置や学内相談機能の充実が望まれる。 ・教職員の支援スキル向上のため、メンタルヘルスに関する研修の導入も検討すべきである。
V-2 進路・就職に関する支援体制
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全専任教員が連携して進路・就職支援にあたる体制は、学生一人ひとりに対するきめ細かな支援を可能にしており、高く評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のネットワークに依存する支援体制に加え、客観的データや業界動向に基づいたキャリア支援の仕組みを強化することで、より持続的かつ広範な支援が可能になる。 ・学生への進路選択支援において、自己分析や面接対策などのスキル支援を体系化するプログラムの導入も検討したい。
V-3 学生に対する経済的な支援
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局と教員が連携した経済的支援体制は、学生の安心な学修環境づくりに大きく寄与しており、実効性のある取り組みとして評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度や支援内容の周知方法をさらに工夫し、制度を知らずに支援を受け損なう学生が出ないよう、ガイダンスやWeb情報の充実を図ることが望まれる。 ・経済的困難を抱える学生の実態を定期的に調査・分析し、ニーズに応じた新たな支援制度の導入を検討していくことが求められる。

V-4 学生の生活環境への支援
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任教員と事務局の連携による生活支援体制は、学生の多様な生活環境に配慮した柔軟な対応がなされており、高く評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の生活状況を早期に把握するための定期的なアンケートやチェックシステムを導入し、潜在的な支援ニーズの掘り起こしを検討されたい。 ・社会的トラブルへの対応力を高めるため、外部専門機関との連携強化や予防的な啓発活動の実施を進めるとよい。
V-5 学生の健康管理を担う組織体制
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断の実施や感染症予防指導など、身体的健康に対する取り組みは計画的に実施されており、基本的な健康管理体制は整備されていると評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神的健康支援の強化に向け、常駐または定期来校型のカウンセラー配置を早期に検討されたい。 ・健康意識を高めるため、セルフケア教育やストレスマネジメントに関する啓発プログラムの導入が望まれる。
V-6 課外活動に対する支援体制
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険制度の活用によって、実習・部活動等における事故発生時の初期対応体制は概ね整備されており、一定の安心が確保されている点は評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外活動全般を対象としたリスクマネジメントマニュアルの整備・周知を進め、安全管理体制を明確化されたい。 ・学生自身の危機管理意識を高めるため、課外活動開始前の安全教育や研修の導入も検討するとよい。
V-7 ハラスメント防止のための体制はできているか
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発生時の柔軟な個別対応が現時点で機能しており、一定の実効性が確保されている点は評価できる。制度化に向けた取り組みも着実に進行している。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ハラスメント防止等規程」および「委員会規程」の制定後は、学生・教職員への周知と定期的な研修を通じて、制度の実効性を高められたい。 ・相談窓口や対応フローを可視化し、誰でも利用しやすい環境整備を図ることが重要である。 ・防止啓発の観点から、入学時や教職員研修時における継続的な周知活動を検討するとよい。

VI. 教育環境

VI-1 教育目的達成のための環境は整備されているか
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材や教育機器の整備は概ね充実しており、教育目的の達成に向けた基盤が確保されている点は評価できる。一方で、備品管理と研究環境整備に改善の余地がある。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器の破損対応を迅速に行えるよう、定期点検の実施や報告フローの明確化など、備品管理体制の再構築を進められたい。 ・研究機器の整備には、外部資金の確保だけでなく、長期的視点に立った整備計画の策定も検討すべきである。
VI-2 既存の機器・装置・器具の定期的なメンテナンスを行なっているか
<p>【総評】</p>

<p>・教育機器の継続的な整備およびメンテナンスに取り組んでおり、安定した教育環境の維持に一定の成果が見られる。今後は管理体制のデジタル化による効率化が期待される。</p> <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器管理のデータベース化を早期に進め、状態把握と更新判断の迅速化を図るべきである。 ・メンテナンス履歴の記録・保存体制を明確にし、計画的な管理を通じて長期的な設備運用の信頼性を高めたい。
<p>VI-3 校地校舎等の学修環境の整備と適切な管理・運営が実施されているか</p> <p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に必要な施設・設備が整備され、適切な管理運営がなされていることが確認できる。計画的な維持管理により安定した学修環境が維持されている点は評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化に対応するための定期点検体制を強化し、早期発見・改善に努めることが望ましい。 ・学生・教職員の利便性や安全性をさらに向上させるため、利用者の意見を反映した施設運営の仕組みづくりを進めてほしい。
<p>VI-4 適切な規模の図書室（館）を有し、教育上必要な教材・備品及び専門図書・雑誌が必要数確保されているか</p> <p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室は適切な規模で整備され、教材や専門図書が教育に支障なく確保されている点が評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司書の常駐がないため、図書室運営の専門性向上と体制強化を検討すべきである。 ・電子資料やデータベースの整備を積極的に進め、情報アクセスの利便性向上を図ることが望ましい。 ・蔵書の更新頻度を高め、最新の教育ニーズに対応できるよう継続的な見直しを推進してほしい。
<p>VI-5 学内外の実習施設、インターンシップ場所の確保</p> <p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内外の実習施設を確保し、実習の質向上に努めている点が評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部実習施設の人員体制の不安定さを早急に解消し、安定的な連携体制を強化することが望ましい。 ・実習内容や評価方法の継続的な見直しを進め、教育効果の最大化を図ってほしい。 ・成果に基づく個別指導体制の充実により、学生一人ひとりの成長を支援する体制を強化してほしい。
<p>VI-6 教育環境の確保・充実に向けた中長期計画が策定されているか</p> <p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備に対して柔軟かつ計画的な対応が一定程度なされている点は評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の中長期的ビジョンを明確にした計画策定を早急に進めることが望ましい。 ・IT 環境整備は段階的導入と予算確保の両立を図り、計画的に推進してほしい。 ・利用者の意見を積極的に反映し、多様な学習スタイルに対応可能な環境改善を継続的に行うことが重要。

VII. 学生募集

<p>VII-1 学生募集活動は、適正に行われているか。</p> <p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は計画的かつ公平・透明な選考で適正に実施されている。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集活動の効果分析を定期的に行い、広報手法の多様化と選抜方法の見直しを継続してほしい。 ・多様な志願者層に対応できる情報発信の強化を推進すると効果的である。
<p>VII-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。</p> <p>【総評】</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・教育成果や活動の情報発信に積極的に取り組んでおり、多様な媒体を活用している点は評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォロワー数や視聴回数など、具体的な実績データも公表し、情報の信頼性と透明性を高めることが望ましい。 ・定期的な内容更新と広報戦略の見直しを継続し、より多くのターゲット層に届く発信を目指してほしい。
VII-3 入学者選抜方法が明示されているか。
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜方法が明確に示されており、情報公開の基本的な体制は整っている。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報更新の頻度を高め、最新情報の反映を確実にする管理体制の強化が重要。 ・受験生にとってわかりやすい表記や広報資料の工夫、対面とオンラインの両面での説明会開催を推進するとさらに効果的。
VII-4 入学金・授業料・実習費等は適当か
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学費や教材費の内容・納入方法が明確に公開されており、費用設定は教育内容に見合った適切な水準であると評価できる。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に他校との比較や経済状況を踏まえた費用見直しを行い、適正な水準の維持を図ることが望ましい。 ・学生・保護者の意見を積極的に取り入れ、納入方法・時期の柔軟な対応や奨学金など支援制度の周知充実に努めてほしい。

VIII. 法令の遵守

VIII-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。
<p>【総評】</p> <p>法令や専修学校設置基準を遵守し、適切な届出や調査を着実にやっている点は評価できる。</p> <p>【助言】</p> <p>関係法令や基準の最新動向を常に把握し、柔軟かつ迅速に対応できる体制の維持・強化を図ることが重要である。</p>
VIII-2 個人情報に対する保護のための対策をとっているか。
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守のもと、個人情報保護に対する基本的な体制と意識の周知が行われている点は良い。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令の最新動向を常に確認し、管理体制の継続的な見直しと強化を推進することが重要。 ・教職員への定期的な研修や具体的なマニュアル整備を通じて、意識向上をさらに図ることを推奨する。
VIII-3 学校自己評価・学校関係者評価を行ってこれを分析し、改善すべき問題点を明らかにし、学校運営や教育活動に反映しているか
<p>【総評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価および学校関係者評価を体系的に実施し、報告・反映の体制が整備されている。 ・関係者の意見を取り入れた改善活動に積極的に取り組んでいる点は評価できる。 ・評価結果の活用と改善計画の透明性向上に向けた今後の取組が期待される。 <p>【助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価の具体的なフィードバック共有方法を工夫し、関係者の理解と協力を促進するとさらに効果的。 ・自己評価の質を高めるため、評価項目や手法の見直し・ブラッシュアップを継続的に行うことを推奨。 ・評価サイクルを定着させるため、改善計画の進捗管理と公開をより明確にし、PDCAサイクルの活性化を図ることが望ましい。
VIII-4 自己評価結果を公開しているか。
<p>【総評】</p>

- ・自己評価・学校関係者評価の結果を継続的に公開しており、透明性のある運営姿勢がうかがえる。
- ・情報公開を通じて地域や関係者との信頼関係構築に取り組んでいる点は評価できる。

【助言】

- ・公表内容の構成やデザインを工夫し、誰にでも分かりやすい形式とすることで、より有効な情報発信となる。
- ・公開後のフィードバックを積極的に収集し、それを評価改善サイクルに反映させる体制の整備が望まれる。

IX. 社会貢献・地域貢献

IX-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

【総評】

- ・教育資源や施設の活用を積極的に情報発信しており、多様な媒体を通じた地域・社会貢献の姿勢がうかがえる。
- ・SNS や YouTube など現代的なツールを用いた広報活動は評価に値する。
- ・ただし、情報発信の具体的な効果指標が不足している点は改善の余地がある。

【助言】

- ・フォロワー数や視聴回数など、具体的な実績データの収集と公開を進め、活動の透明性と説得力を高めることを推奨。
- ・広報内容の信頼性を向上させるため、発信情報の定期的な更新と正確性の担保を徹底することが重要。
- ・地域住民や関係機関との連携を強化し、多様な媒体を活用した双方向の情報発信を促進すると一層の貢献が期待できる。

IX-2 地域の公開講座・教育訓練の受託

【総評】

- ・自治体や高等学校との連携による講師派遣・出張講義は、地域貢献と次世代育成の観点から意義深い取り組みである。
- ・本学の専門性を活かした活動が地域に認知されつつあり、教育機関としての社会的役割を果たしている。

【助言】

- ・活動の継続性を担保するため、担当体制や運営ルールの明確化が望まれる。
- ・地域の多様なニーズを把握し、それに応じた講座内容の企画・開発を強化すると、より高い効果が期待できる。

IX-3 学生のボランティア活動の支援

【総評】

- ・学生への情報提供体制が多様な手段で整備されており、参加しやすい環境づくりがなされている点は評価できる。
- ・地域貢献を通じて学生の社会性・責任感を育むという観点で、教育的意義が高い取り組みである。

【助言】

- ・活動実績や参加内容を定期的に把握・記録することで、学生の成長や地域との関係性をより明確に示すことができる。
- ・継続的な参加を促すためには、活動後の振り返りや表彰・単位認定などのインセンティブも検討されたい。